

麦の穂

NPO法人麦の会 

〒989-0834 仙師宮城野区松岡町17-1

TEL-FAX (022)
292-1279

E-mail: muginokai@k5.dion.ne.jp
http://www.web-i.ne.jp/aaa0098

題字 ニューフェイス
鎌田啓夢くん♡
6.7ページをご覧ください

総会報告

飯嶋 茂

震災から2か月がすぎた5月14日、なんとか麦の会の総会を行うことができました。

2010年度は、東日本大震災～共同連宮城大会～雇用関係の締結～愛知揆一社会貢献大賞受賞、今思うところの4つが、今年度の大きな出来事でした。

東日本大震災・共同連宮城大会・愛知揆一社会貢献大賞受賞については、麦の穂でも報告しましたので、それ以外の部分を事業報告から抜粋して、総会の報告にかえます。

2010年度事業報告（抜粋）

【1】雇用関係について

現在のコッペの収支では、全員と雇用関係を結ぶことは難しいため、就労継続支援B型のままで、出来る人から雇用を結ぼうという方向で話し合いを進めました。

まず、県に話しにいったところ、「公の立場上いいとは言えないが、いわれることは理解できる」という暗黙の了解を得ました。

話し合いの結果、以下の条件を満たす人で、希望する人と雇用関係を結ぶことにしました。

- ① 8年目以上
- ② 20時間以上の勤務時間
- ③ 最低賃金の減額申請はする



- ④ 社会保険はかけない
- ⑤ 中退金は現在のコッペの財政状況ではかけられない

その結果、新たに2名と2011年1月より雇用関係を結んでいます。また、中退金については、来年度の経営状況等、少し長い目でコッペ負担が可能か判断していきたいと思います。

【2】就労継続支援B型「コッペ」の運営状況

2010年度からはすまいる作業所がNPO法人コスモスクラブの運営となり、NPO法人フルハウスから独立しました。

そのためコッペは、フルハウスグループの一員として、単独での就労継続支援B型の事業体系で運営を行なってきました。

コッペの定員としては、20名。在籍は15名です。

それを支えるスタッフは、常勤4名、パート6名である。それにコッペショップを支えるメンバーの方々、区役所販売等を手伝っていただけるボランティアの方々等に、コッペの運営に協力して頂いた。

① 開設状況

開設日数は、247日/年、利用者延べ数は、2,702人である。3月の後半が稼働できなかった分だけ昨年より少なくなっている。

② 売り上げ

パンとクッキーの売り上げは、約2,055万/年（仕入れ販売を含む）。月平均17万。2009年度の売り上げに比べ160万/年ほど下がった。販売に向けていろいろ努力はしたが、長期的な経済不況の影響はコッペにもでており、それからの脱却出来ていないのが現状である。おたのしみパン会員も現状維持といった状況である。

③ 訓練等給付費収入

人が増えたことと、報酬単価も加算が認められ上がったことで1,777万円強になり前年度に対して110万円ほどあがった。しかし現状の給付費の算定は日割り計算であり、3月は震災の影響で極端に減っている。行政にも特例措置を取るよう要望を出したが叶わなかった。今後、日割り計算をやめ月額制へ戻すよう制度の改善を求めていく必要がある。

④ 工賃

障害メンバーの給料は、最高で7万、最低1万、平均約4万円となっている。

⑤ コッペショップ

年2回のセールのほか、ホワイトデー企画としてクッキーの長期セール等も行った。

ショップ会議を理事会の中でやる予定だったが、なかなか十分な時間が取れなかったのは、反省点である。

⑦ 余暇

今年もコッペも加盟している平成商興会の食事処「いちえ」さんから食事会のご招待をいただいた。また、楽天ゴールデンイーグルスの試合のご招待を今年度もいただいた。

夏に共同連大会があり、その参加を最優先にしたので、一泊旅行等はおこなわなかったが、ラウンドワンを利用して、ボーリング・カラオケ大会を有志で企画してもらい、好評であった。

⑧ 各種バザー・区役所販売・幸町ガス局への参加

イベントにその月の売上が大きく左右される面も大きいのが現状である。特に暑い時期、寒い時期の販売の情報があれば寄せて欲しい。これらの販売には、中で働いている障害メンバーもできるだけ参加してもらうように働きかけていきたい。

【6】 理事会

8月・3月を除き、月1回、計10回おこなった。コッペでは、みんなで運営を考えていこうというスタンスで、理事会には都合がつく限りみんなに参加してもらっている。その中で忌憚のない意見が出されればいい。今年度の理事会でも、かなり白熱した議論ができたのではないかと思う。今後ともできるだけお互いに意見を出し合ってよりよい方向を考えていきたい。

【7】 会員（3/31現在）

正会員 25名 賛助会員 48名 計73名

（正会員2名減、賛助会員12名減）

会員数はここ数年ほぼ変わらない。ほとんど呼びかけていないのが実情だが、もう少し会員を増やす工夫もしたい。

税の優遇措置がとられる認定NPO法人の基準が緩和されることもあり、会員数が多いほうが有利である。

なお、サポーター会員（6名減）38名である。

【8】 社会教育の推進

会報「麦の穂」の発行 計2回 それぞれ170部前後



2010年 6月 11日

3月は、震災のため発行できなかった。

【9】ではっぺ薬師堂

NPO法人フルハウスとして、授産施設等活性化事業の補助を受け、県の委託事業として運営している。近隣へリヤカー販売を行うなどもしている。地元にはだいぶなじんできたと思うが、売り上げはまだまだである。なんとか若林の販売拠点として機能させていきたい。

【10】NPO法人フルハウスとの連携

コッペの直接の運営母体は麦の会であるが、障害者自立支援法上は、NPO法人フルハウスが運営する形になっており、訓練等給付もフルハウスを通じて入ってくる仕組みとなっている。

当然のことながら、NPO法人フルハウスを構成するフリースペースソレイユとフルハウスグループの一員として協力している。

フルハウスを立ち上げた要因は、法律上の定員問題があった。施設の最低定員が20名以上であり、単独では給付事業に移行できなかったわけだ。

しかし、移行した成果として各事業所とも単独で定員を20名以上にすることができるようになった。そのような状況の中で、すまいる作業所が、NPO法人フルハウスを離れ、独立することになった。これに伴い、すまいる作業所とコッペの小規模多機能の関係は解消されることになった。

2010年度からは、コッペも単独で定員20名の就労継続支援B型事業所として運営してきた。

ソレイユは、今回の震災で、古い方の建物が被害を受け、立て直しをしなければならぬ状況になっている。昨年度新しい建物が完成してよかった。

また、ソレイユでは沿岸部から通っている人も多く、現在も1名の方が避難所生活を送っている。また、自宅が被災した4名が、ソレイユ代表の菅井さんのお宅で生活している。その人たちの生活を保障したいと、立て直す建物にはグループホームも併設でないか検討中である。

なお、震災直後は20名ほどの人がソレイユの新しい建物で避難生活を送ったそうである。

ソレイユとは今後も月1回のフルハウスの会議の他、ソレイユ祭りへの参加、合同学習会の開催、互いの商品の販売等、今後も連携を深めていきたい。



島を出て そしていつか必ず島へ

女川町立女川第二中学校 守屋 久美子

^{いずし}出島から、出て4ヶ月も過ぎ去ろうとしています。出島は、女川町にある離島です。私が勤務している中学校は、山のとっぺんにあります。小学校と中学校が同じ校舎にある僻地校です。県内で一番生徒数が少ない中学校です。3月11日に起きた信じられない巨大な地震と津波により、島民は島から脱出せざるを得ませんでした。

その日幸いなことに、部活動は無かったもの生徒たちは、まだ校庭で遊んでいたため自宅に戻った生徒はおらず全員無事でした。自宅に戻っていたらと思うととても恐ろしいです。そして、私たちは巨大な津波が島をも襲ったことを知りませんでした。山のとっぺんにある学校からは、海が見えません。何が起きているかすぐに知ることはできなかつたのです。次第に学校の体育館に島民が避難してきて何が起きたか分かつたのです。小学校の卒業式を控えていた体育館にストーブはありましたが、雪も降りとても寒く厳しいものでした。民宿の女将さんが布団や毛布を運んだり床にマットや柔道用の畳を敷くなどして寒さをしのぎました。

ほとんどの島民が避難した体育館では、非常用の食物をみんなで分け合い食べました。生徒たちもトイレに流す水をプールから運んだり校庭で火をおこす薪を集めてくるなど協力しました。一方、親の所在を確認できない生徒は不安な夜を過ごすことになりました。

高台にあった私の家は、幸運なことに救われました。隣のおばあさんに常備薬を持ってきて欲しいと頼まれ、恐る恐るバイクで下がって行きました。家の形はどこにもありません。船もこなごなになった家の上に乗っかっています。目の前に広がった惨状に言葉を失いました。そんなばかな……。絶句

通信手段を奪われた私たちは、校庭に「SOS」と大きく文字を書いたり1つ残された衛星通信を駆使して自衛隊にキャッチされたと聞かされました。そして12日自衛隊機で全島民は島を出る決断をし、石巻に避難をしたのです。自衛隊機に乗った私たちは、誰もが現実のこととして受け入れることはできなかつたはずで、それはまるでハリウッド映画のワンシーンを見ているかのようでした。そして、いくつかの避難所に島民は分散してしまいました。

子どもたちの多くと私も石巻商業高校に避難しました。生活の場も仕事も学校も失った島民たちの避難所の生活が始まりました。商業の先生たちの献身的な支援に頭が下がりました。小学校4人の卒業式も商業で3月24日に実施することができました。多くの皆さんが参加してくださいました。引き続き修了式も行いました。避難所では、子どもたちと清掃をしたり教材もない中で午前中だけの授業をしたりとみんなで集まることでお互いの確認と環境の変化で体調を崩してはいないか等を知ることができました。窮屈な避難所暮らしではあっても子どもたちの声が響きます。あたりまえと思っていた生活をまるごと一瞬にして奪われてしまった島民。泣くに泣けない島民。「島にもどりたいなあ」と子どもたち。

学校の再開に向けての動きが始まりました。それは、残念ながら島ではない陸にある女川第一中学校に間借りすることで決定。島民たちは、4月6日女川の小学校の避難所に移り、中学生13人全員二中に残ることが確認、小学生は在籍を残し多くは他校に移りました。そして、今日間借りした状態での学校生活を送っています。多くの人々の様々な支援活動に支えられながら私たちは、生活しています。女川の復興も着実に始まっています。出島の復興を願って、毎日島でガレキの撤去、後片づけに汗を流している島民。もう一度養殖を再開するという強い意志。島の学校に戻りたいという希望を1日も早く実現させたい。そんな日が来るのが待ち遠しい。

かまた ひろむ
鎌田啓夢



18歳

4月1日から歩いて通っています。
毎日クッキーとパン作りをがんばっています。
いつか『セント君パン』が作れたらいいなあ—
と思っています。

(奈良県のマスコットキャラクターです。)

コッペの皆さんどうぞよろしくお願いします。

♪好きな番組：めちゃイケ。笑ってコラえて!

♪必ず録画する番組：ゴルフ、マラソン、駅伝

♪寝てるのにつける番組：NHK ラジオ体操

” 中国語講座

” ロシア語会話 など



ファイル.1

× × × × × × ×
× 7月11日.2 ×
× × × × × × ×

平成5年3月15日生
《5×3=15》
出生地：埼玉県川口市
血液型：A型
星座：魚座 ♉
身長：170.1cm
体重：63kg

H.11.3月
芝川保育園卒
H.17.3月
仙台市立西山小学校卒
H.17.4月 入学
鶴谷養護学校 中野
H.23.3月
鶴谷特別支援
学校卒

～特徴～
* 手足が細く腹が出てる
* 声が大い。拍手も超
大音
* 自由が苦手(だと思いきや)
* 確認多すぎ
* 芸能人、スポーツ選手
政治家など人名に
詳しい!! (はぶです)



ハニー(♀)
たぶん6歳くらい...



絵：鎌田実佐(妹)

おじいさん

僕はびっくりしました。おじいさんが突然ですか7月9日(土)に亡くなってしまいました。さみしいけれどおじいさんのそばで僕が泣いてしまいました。

こんな2年前の時思い出がたくさんあってうれしい時もありました。なから泣いてしまいました。ありがとうそしてさようならあのやさしいおじいさんが天国からあたたかく見守っています。

おじいさん2年前の時 うみやお風呂や一糸者にぬってよかったよ ありがとう
「ありがとう天国からまご守って」

阿部央希より



地震の事、忘れたいけど書きます。No.2

後藤 ゆかり

地震発生二日目。

ヘリコプターが飛び交う海から太陽が上る。車中泊は冬山のテントのようだ。マンションは目立ったヒビが無い。六階の部屋を片付けに行く。外階段を登る。景色はまるで戦場のようだ。救急車と消防車のサイレンが響く。新幹線陸橋上の電柱がハの字に曲がり連なる。海沿いのガスターミナルは燃えている。真っ黒な煙が空一面に広がる。他の海岸線は白い煙が上ぼりヘリコプターが飛び回っている。津波が来た辺りだ。昨日荒浜地区に死体が多数あがったとラジオで聞いた。前の家の近くだ。現実を受け入れ難い。携帯で撮る気も起きない。恐ろしい光景を脳裏に焼き付けたく無いのだ。娘②はベランダで茫然としている。落ち込むな。今は自分がやるべき事をしよう。みんなで散乱した部屋から懐中電灯、携帯の電池式蓄電機、カイロ。時計やリモコンから電池をテキパキと集める。子供達は昔絵本の「ウォーリーを探せ」が得意だった。隣の人が一階の集会所で二瓶さん達が炊き出しをすると教えてくれた。地獄に仏。マンションの管理組合はしっかりしている。非常時用のお米やカセットコンロなども備蓄。二瓶さんはコッペのスタッフで管理組合のドンの存在だ。二瓶さんと入江さんと老後と一緒に暮らしたくてこのマンションを購入した。地震保険にも入っている。一段落したら、集会所に行こう。まずは何か食べよう。わらしべ舎のレトルトカレーと地球村の苺ジャムがある。食パンと一緒に朝食をとる。牛乳を飲みながら2枚目に手をのばす。食事は安心を与え、甘い物は脳にアドレナリンを撒き散らした。…救助を待つ人達はどうしているだろ…こんな美味しい物を食べて申し訳ない。と涙が出そうになる。ダメだ、被災した人の事を考えると、無力さに押しつぶされる。

やれる事だけを考えよう。まずはコッペを見に行こう。娘達を連れコッペまで徒歩5分、地震の爪跡をたどりながら歩く。瓦屋根はかなり落下している。地割れもすごい。いつも行く手を阻む踏切はロープで縛られ開いたまま。電車が駅に放置してある。明るい所で見るとコッペは傷だらけだった。壁は何カ所もひび割れ外壁が落ちていた。不安を感じながら室内へ。中もいたる所壁にヒビが入り、壁紙が破れていた。上に置いてあった物は全部落下。棚も倒れたそう。雑然としているが、片づけてある。デカイオープンが前にずれ後ろが通れるようになっている。引越しの時、クレーンで下ろした重い物がこんなにズレるなんて。倒れなくて良かった。あんなに長く強く揺れたのに建物が壊れず、誰も怪我がないのは奇跡的な事だ。古株の使い込んでいる機械も無事だ。良かった。

これで又みんなと仕事出来る。ホッとする間もなくデカイ余震が来る。建物がキシキシと音をたてる。

軋む音は嫌いだ。地震警報の音も心臓に悪い。声で知らせる方が良い。コッペのみんなに「ゆかりさ～ん。地震来るよ～」なんて優しく言われたらデカイ地震も耐えられそうだ「ゆかりさんお茶入れたわよ～」何件もパンを配達後、てっちゃんに言われた時のように力が湧きそうだ。

昨日別れたばかりなのにもうみんなに会いたい。今何をしているのだろうか？と、感傷にひたる間も無く又又デカイ余震。よく見るとみんなが多くいた工場は目立ったヒビが少ない。

聞く話によると、地震発生時、コッペショップに幸いな事に、お母さん達がいた。親子揃っている人は早々に帰ってもらった。

娘②は近くの配達先で、てっちゃんと尾崎君と被災。パンを納品後の事だ。コッペにはすぐ戻る事が出来た。

遠くから通う人達は親が渋滞にはまりながらも迎えに来てくれた。私も無事あつくんとすみちゃんを送った。

迎えに来られないと思われる大ちゃんは娘②がコッペ号で送る。大雪と渋滞と余震。停電で真っ暗。信号も消えている。近くのコンビニに車を停める。大ちゃんのアパートはひび割れていた。入ろうとする大ちゃんを止め、避難所を探す。お母さんを無事探した。大ちゃんのお母さんが傘を貸してくれ助かったそうだ。

大ちゃんは避難所でしばらく過ごす事になった。コッペの中で避難所に行けたのは大ちゃんだけだった。

娘②は雪道の中で避難所を探し回ったため、足が霜焼けになった。

他は幸いな事に誰も怪我なく全員無事帰宅出来た。奇跡的な事だと思う。

しかし、コッペは借家で本当に良かった。正直高い家賃を払い続けるのは大変だった。借金して購入する事も考えた。運営は難しい。どう転ぶかわからない。

今、食料不足が深刻だ。流通がストップしている。早くパンが焼きたい。明日のスタッフ会議でみんなと知恵を出し合おう。

とりあえず家に帰り片付けをしよう。

本当はこのままコッペでラジオを聞いていたい。しかし避難所に行かないと決めたからには安心出来る場所を作らなくては。

飲み水はマンションの給水タンクに残っていた分を汲み置きした。風呂水もある。コッペはまだ水が出ている。が時間の問題かもしれない。コッペの魔法瓶を借りて、ストーブの上で沸かしたお湯をもらう。これで、常備していた息子の多種多様なカップ麺が食べられるな。息子よありがとう。

コッペ号を借り、近くの娘②のアパートに荷物を取りに行く。ガソリンが勿体ないので一回で終わらせる。二世帯あると買い置きが二倍。反射式石油ストーブと食料類は特に助かる。プチ引っ越しでマンションは荷物で足の踏み場がなくなる。エレベーター無しで6階に運ぶのは一苦勞。階段の登り降りですげな。

ベランダのエアコンの室外機がけん玉のように転がり非常口を塞いだ。倒れたプランターでベランダは程良く耕された畑状態。何か植えたい気持ちを抑え、片付けて非常口と動線を確認。

余震が来る度中断して廊下に逃げる。地震警報は時報のようだ。そして、たまにはずれる。だんだん暗くなってきた。とりあえず借りた車に戻り一休み。のつもりが体に根っこが生え動けない。膝も更に大爆笑。しかたない。今夜も車中泊だ。布団などを車に運ぶ。車内は昨日よりさらにグレードアップ。学習は力なり。

あたりはすっかり暗くなった。みんなトライアスロン並みに疲れている。しかもゴールが全然見えて来ない。

東京にライブに行行って帰れなくなった息子は、新婚の親友宅に身を寄せる事になった。迷惑な話だ。

撃沈した娘②を車に残し娘①と集会所に行く。二瓶さん達が炊き出しをしていた。お湯を入れるだけでご飯になるアルファ米がある。水も汲んで来てくれた。さすが二瓶さん。仕事が早い。沢山の住人が、日持ちしない食料を持ち込んでカセットコンロで煮炊きしている。私も家の冷蔵庫をあさり参加。

仏壇のろうそくの灯りの中、集会所はまるでアメリカのホームパーティーのようだ。いつもよりグレードアップした夕飯。分け合う姿に癒やされた。このマンションの住民で本当に良かった。一階にある集会所は、マンション住人の避難所になっている。二瓶さんに誘われたが丁重にお断りした。

車に戻り布団に潜り込む。余震に何度も起こされるが身を寄せれば暖かい。ラジオが聞きたいがガソリンが心配で我慢。

遅れたメールがまとめて届いた。コッペの七恵ちゃんからのメールは不安に満ちている。届くかわからないが速攻頑張ろうメールを送る。

劇団主宰のメールを見て泣いた「家の前まで津波が来ました。みんな逃げて。」主宰のアパートは多賀城駅のそばだ。海から5キロは離れている。津波は二波の方が強いと聞いた。主宰は逃げられただろうか。

私は劇団に所属している。団員の誰とも連絡がつかない。不安に心が裂けそうだ。

眠れないまま朝が来る。疲れもピーク。日時の感覚があやふやになって来た。ラジオを聴きに集会所へ行く。二瓶さんの所にコッペの親方ことマイケルひろきからメールが来た。「俺が守るから安心しろ」頼もしいかぎりだ。

親方の大好きなお爺ちゃんお婆ちゃんは石巻にいる。津波が来たとニュースで聞いた。無事で居て欲しい。親方がどんな思いでメールを送ったかと思うと心が痛む。コッペ会議に行く。娘①が車の外も一人も怖いと言っている。コッペの大事な会議だがコッペ社員の娘②を車に残す。

私も娘達と離れる事が不安だ。飯嶋家も同じ思いをしている事だろう。



コッペ会議はいつもと変わらない空気だ。安心する。飯嶋家も全員無事と聞き安心した。

電気、水が復旧次第、材料使い切るまでパンを焼き店頭販売。コッペの仲間達は自力で来られるようになるまで自宅待機と決まる。

最近休んでいる石巻から通う摩耶ちゃんの安否確認が出来ていない。仙台の長町の家泊まっていると前日たまたま顔を出した本人から聞いた。予定が変わり石巻に帰っていないと良いが…

私が直接長町に確認に行く事になる。摩耶ちゃん待っていてね。

過酷なドライブの始まりとなる。

携帯が繋がらないので、一度マンションに帰り娘に報告。一人は怖いので娘達も連れて行く。

コッペ近くの45号線は多賀城方面に県外から自衛隊が続々と駆けつけている。頭が下がる。信号は全て消えている。最短距離に行く。場所により被害がかなり違う。被害の全く感じられない所もある。ギャップがある。電柱の斜め具合でわかる。携帯のアンテナみたいだ。段差が至る所にあり道はボコボコ。ガラスのショーウィンドウは割れシャッターはジグザグに曲がる。給水タンクが落ちそうな所もある。下が駐車場の家電量販店は軒並みやられている。火事で焼け落ちた家が点在。燃え広がらなかったのは、消防士の努力の賜物。きっと寝ないで頑張っているのだ。

摩耶ちゃんの家に着く。家族と一緒にいた。石巻の親類も無事。良かった。嬉しくて抱きしめる。笑顔が見られてお互いに安心する。やはり携帯電池切れで連絡が取れなくなっていた。クッキーを差し入れ、今後の予定など色々話す。元気に手をふる摩耶ちゃんに安心しながら出発。

改めてコッペを早く再開したいと感じた。通行止めに気をつけながら、来た道と違うルートで帰る。

長町駅前付近は信じられない程波打っている。まるでデカイジェットコースターだ。活断層か？さらに液状化したのか？街路樹の根っこが見えている。広瀬川の橋の上で新幹線が放置されている。

海沿いの方からはボコボコになった泥だらけの車が走って来る。津波は一体どこまで来たのだろうか。

友人達から相変わらず連絡がない。考えると不安で心が砕けそうになる。駄目だ。今は運転に集中しよう。集中力が切れたら帰れそうにない。下りがキツイ登山のようだ。

なんとか無事コッペにたどり着いた。

飯嶋氏は事務の鳥海さんと鳥海さんのマンションを兎に行った。一人暮らしをしている足の不自由な鳥海さん。マンションのエレベーターが止まり大変だ。地震発生から後藤夫妻宅に身を寄せている。

部屋は前、耐震性を考えて、ボランティアのけんちゃんに家具を動かして固定してもらった。効果があったと聞いている。

後藤宅はライフラインが止まっているが、大きな被害が無かった。後藤夫妻はコッペで働きみんなを普段から支えてくれている。靖さんは半身不随。言葉も不自由だ。他の施設にステイしている自閉症の息子さんと三人で暮らしている。

飯嶋氏が言った。後藤宅は今、災害弱者が勢揃いしている。災害弱者。勉強不足の私は始めて聞いた言葉だ。

耳の不自由な祝子さんは普段から毎日物凄く頑張っていて動き回っている。こんな時だからこそ、更に頑張っているだろう。体を壊さなきゃ良いが。

聞く話によると、群馬から娘さんが物資を積んで命がけで駆けつけたそうだ。凄い。さすが祝子さんの娘。行動が早い。祝子さんのDNAが着実に受け継がれている。親子の情の深さに感動する。みんな頑張っている。私も頑張ろう。

決意を新たにマンションへ帰る。

まずは掃除から始めよう。一部屋に家具と荷物を押し込め、家具の無い部屋を作る。久しぶりに布団を敷く。横になる。なんとも言えない開放感。当たり前が当たり前じゃなくなった今、ささいな事で泣きそうになる。

又大量にメールが届いた。水の出ない暗いトイレに駆け込んで娘達に悟られないよう、声を殺して泣く。劇団主宰の無事メール。生きていたと喜んですぐ、文面を見て更に落ち込んだ。まだ半分の団員の消息がわからない。願う事意外私は何も出来ない。無力だ。

劇団には消防士と自衛官がいる。奥さんも劇団員。みんな頑張っている。私も泣いてはいけない。

暗くなって来た。相変わらず容赦なく余震が続く。余震のたびに懐中電灯と非常持ち出しリュックを背負って外へ飛び出す。

戦時中空襲の度防空壕へ逃げた、母の昔話と重なる。母はもっと怖い思いをしていただろう。不平不満を口に出来るだけ私達はました。

一晩に何回も、両隣の人と挨拶を交わす。隣に人がいるだけで救われる。寒さ対策の重ね着。風呂にも入れない。深めにかぶったニット帽がみんな似合っている。パジャマに着替えて寝たいね。と、笑いあう。

まさか、この夜中の行事が、何ヶ月も続くとはその時は知るよしもなかった。電気の復旧工事が少しずつ進んでいる。不眠不休で働いているのだろう。ありがたい。45号線沿いの道路に街灯が点き始めている。昨日まで、ガスターミナル以外は真っ暗闇だった。道路が寸断して消化活動が出来ないと聞いた。そこへ続く街灯の灯りは希望の光りに見える。

地震発生から何日目だろう。眠れ無いまま朝が来た。時間の感覚がまったく無くなった。でも昼の上で寝られる事を幸せだと思ふ。ムチウチの後遺症が辛い。フラ

フラする。しかも寒い。ラジオが聞きたい。集会所に差し入れ持参でお湯を沸かしに行く。二瓶さん達が炊き出しをしながらビールを飲んでいる。この非常事態に不謹慎、なんて言う人は誰も居ない。皆酒で気を紛らわしている。津波が来た所を見てきた人の話しに耳をおおいたくなる。すぐそばの中野栄駅まで津波が来ていた。ここから10キロも離れていない。瓦礫の山で道路は寸断。車の中に亡くなった人が放置されている。そんな中、新港のビール工場から流され着いたビールが散乱している。そのビールを誰かが拾って差し入れた。桜の柄の少し凹んだ缶。皆で飲んでいるビールだ。私は飲む気になれない。

昨日、ラジオで福島原発爆発と聞いた。地震、津波、雪、そして原発。エイリアンが襲撃する映画のようだ。放射能漏れは目に見えない。とりあえず外出を控え雨や雪にあたらぬように注意する。

しかし、外出出来ないとかかなり困る。こんな時だからこそ、コッペのみんなに会いに行きたい。安否確認は出来ている。が携帯がうまく繋がらない。電池切れなのだろう。

アトピーで食事制限のあるてっちゃんが心配だ。河口も近い。コッペの張さんが地震の次の日、心配して自転車でてっちゃんの家近所を見てきた。防波堤は無事。でもそばの川に家が流されて来ていたと言っていた。てっちゃんは避難所にいったのだろうか…。

メールの返信がまとめて来た。内陸部の人は皆無事が確認出来た。続々劇団員の無事も確認できてきた。劇団員二人と連絡がつかない。

子供達とたいして変わらない子供達だ。きっと無事に違いない。届くかわからないが生きていてとメールを送る。旨い酒買ってあるから、必ず一緒に呑もう、と送る。いやなチェーンメールが大量に届く。内容は「福島放射能漏れがヤバい。女川原発も放射能漏れしている。外出は控え、雨や雪にあたらぬように。国の発表はみな嘘ばかりだ。」だいたい同じようなものばかり。デマに惑わされないよう、気を付けよう。

部屋へ戻り布団でゴロゴロしてみる。食べる以外やる事が無い。恐怖心に押しつぶされそう。地震前、毎日過激で過酷な労働をこなして来た。考えてみたら、高校卒業後から働き詰めの毎日だった。夏休みみたいに一日中ゴロゴロしたいと夢見ていた。でも夢なら覚めて欲しい。とりあえずもらったお湯でご飯にする。かんでんぱぱのスープは美味しく、少し気が紛れる。

娘達に仕入れた情報を伝える。友達からのメールで殆ど知っていた。県外の子が、津波の映像は映画のようだ。とメールで言っていた。後々、その言葉を痛い程理解する。

何か明るい事を考えよう。辛くて頭が変になる。

そうだ。明日は二瓶さんの誕生日だ。みんなと「いちえ」さんで誕生会を兼ねて飲

みに行く予定だった。二瓶さんに娘達とケーキを作ろう。数は足りないがろうそくもある。そろそろ電気が点くかもしれない。材料を考える。卵も牛乳も無いが娘①が携帯からネットにアクセス。アレルギーのメニューから探す。すごい！ネットにアクセス出来るようになった。着実に復興して来た。と感心する。早く電気が点くと嬉しい。夜、強い余震に飛び起き懐中電灯片手に廊下に飛び出したら、廊下の灯りが点いていた。思わず踊り出しそうになる私を娘達は止めた。

早速テレビを付ける。

深夜なのにずっとニュースをやっている。津波のニュース映像を見て愕然とする。眠気も吹き飛んだ。予想もキャパも軽く超えた。溺れた時のように息が出来なくなった。

見たくなかった。涙で画面が歪んでいく。ダメだ。とにかく寝よう。体にも心にも悪い。

外は両足が強くなった。雪じゃない。少しずつ春は近づいて来ている。どんなに辛くても夜明けはやって来る。

娘②はネットでアップされている航空写真などの映像で前の家を探している。どうやら、家らしき物は立っているらしい。道路は寸断。今は入れない。

今日は何事も無かったように過ごそう。二瓶さんにケーキを作る。昨日ネットで調べたレシピを参考にする。牛乳の代わりに豆乳を入れ、卵が無いのでホットケーキミックスを足す。お気に入りのカップに生地を流し込み電子レンジでチン。生活感溢れる香りと音がした。あら熱を取ってからジャムでトッピング。カラフルな細い口ウソクを立てる。蒸しパンに近い程質素。今を物語る。

二瓶さんは集会所に居た。私は廊下で口ウソクに火を点ける。外は雨。程良く暗い。歌いながら登場。居る人達と一緒に合唱。二瓶さんが火を吹き消す。

二瓶さんが言った。

「1日早かったけど、嬉しいわ。ありがとう♪」

私「…やっちゃまった！」

集会所に笑顔が溢れる。楽しい。一瞬だけ、地震前の空気になる。

来年の誕生日は「いちえ」さんと、今日の事を酒の肴にみんなで呑もうね。

劇団員全員無事とメールが来る。最後まで連絡がとれなかった二人は避難所にいた。家が津波に流された。1人は爺ちゃん婆ちゃんを抱え、歩道橋に逃げ助かった。着の身着のまま。これからの事が心配だ。すぐにでも会いに行きたいが車もガソリンも無い。辛い。

地震発生から何日目か、てっちゃんのお母さんとやっと連絡が取れた。自宅にいる。やはり食べる物が深刻だ。可能な限り食料をかき集め自転車で届けよう。幸い



雨は上がった。二瓶さんも一緒に行くと言う。心強い。原発が心配だ。気休めかもしれないがマスクをして行こう。自転車は10年ぶりに乗った。産まれたての小鹿のようにぷるぷるしている。二瓶さんは毎日乗っている。実力の差は歴然。珍道中の末、てっちゃんの家に着。途中運良くお団子屋さんからお団子とお饅頭をゲットした。

二瓶さんの自転車からはドラえもののポケット並みの食料が飛び出した。さすが二瓶さん。ホームベーカリーで作ったパンもある。これでしばらく大丈夫。

てっちゃんは自閉症。物にこだわる。携帯は大切なアイテムの一つだ。ずっと携帯をいじっている。いつもと変わらない様子に安心する。

てっちゃんは配達中に地震にあった。その時も特別番組を携帯でずっと見ていた。と娘②に聞いた。地震発生後電池が切れ、車のバッテリーを使って充電。一台ダメにしたようだ。てっちゃんの家のおそばまで津波が来ている。川の中洲に家がある。幸い堤防ギリギリで越えなかった。

怖くて、家の前のアパートの、外の踊場で二晩過ごした。「てっちゃん連れて避難所には行けない。家にいるしかない。怖いけど外よりはましよ。」とお母さんは笑っている。車中泊でも寒かった…外はどんなに寒く、怖かっただろう。

余震がとても心配だ。本当はコッペか家のマンションに避難させたい。提案したがお母さんは遠慮している。

アトピーはお風呂に入れ無いと悪化する。オール電化かプロパンガスで水道が通った家を探そう。

誰でも、受け入れてくれる、避難所があればありがたいと痛切に感じる。

てっちゃんのアトピーの薬が高知県から郵便の書籍扱いで届けられた。宅配便は今ストップしている。が郵便は届く。

家族みな知恵を出し合って必死に生きている。

てっちゃん達は、隣の一人暮らしのご高齢のお婆さんも連れて避難していたようだ。色々世話を焼く姿に頭が下がる。

コッペの人は苦労人だけあり人間が出来ている。祝子さんもそうだが、自分の事だけで大変な時でも、人を思いやる気持ちがある。素晴らしいと思う。

帰り道、防波堤の近道を通る。川に立派な家が流されている。二階部分のカーテンや壁の写真がそのまま、生活感を物語る。瓦礫の近くの川面に白鳥が五羽。穏やかに羽を休めている。飛べる鳥が羨ましい。

液状化したボコボコの道を走り、沢山のスクープ映像を見ながら帰る。マンホールは余震の度に更になっていく。筈のようだ。

今日は暖かいを越して暑い。ほうぼう店が開いてきた。「いちえ」さんもおにぎりを格安で提供。味噌汁まで出している。買い出しで疲れた人達が、喜んで利用している。お饅頭を差し入れする。

ガス以外、ライフラインが回復してきた。床屋さんもシャンプーだけ再開。皆さんの頑張りに勇気をもらおう。

二瓶さんとローソン100で買い出しの行列に並ぶ。食料をゲット。これでしばらく大丈夫だ。

コッペももしかして、電気と水が出るようになっているかも。顔を出す。飯嶋氏になりっぱなしの電話の対応をしていた。沢山の電話やメールが着てありがたい。

コッペもガス以外、ライフラインが回復。居る人で予定を決める。明日一日かけ大掃除。次の日クッキーを焼けるだけ焼く。ちょうど週末だから、月曜日からパンを焼こう。

コッペの仲間達は安全が確保出来る範囲内で自力で来れそうな人だけ来てもらおう。親の判断に任せよう。

いよいよコッペ再開だ。

マンションに帰る。娘達がネットでアップされた動画を見すぎて打ちのめされていた。娘①は彼氏や友達とメールで発散しているが娘②はそれが出来ない。溜まりに溜まっている。

放射能が怖くて、外にも出られない。

明日から仕事再開と娘②に伝える。娘①もボランティアに行くと言っている。コッペにボランティアに行くのは久しぶりだ。

息子から、前の家の付近が全国ネットで映ったとメールが来ていた。ユーチューブにも、アップされていた。見て見る。浜は見る影も無く、瓦礫となり街は跡形もない。友人達は無事だろうか…

家の周りの映像が遠くに映る。崩壊は辛うじて免れているように見えるが、遠くてわからない。

今回、沿岸5キロにある東部道路が防波堤の代わりをした。仙台市が防波堤も兼ねて計画的に道路を作ったと家を建ててしばらくしてから何かで知る。

残念ながら、海側に家がある。文句を言っている私に、元夫は「ここまで津波が来る時は、この世の終わりだ」と爆笑された。

画像を見ながら「きたじゃん!!」と一人で突っ込みを入れた。

前の家は生活するのにかなり不便で苦労した。学校も病院もコンビニも遠い。最初の頃は免許も無く、一人で子育てするのは大変苦労した。

おまけに私は子供達が小さいうちから生活のため働かなくてはならなかった。免許もとった。

陸の孤島のような所へ子供3人を残し働く事はお互いに常に不安でストレスを感じていた。子供達は早く大人に成らざるを得なかった。

しかし、四季折々沢山の自然があった。玄関を開けると見渡す限り、白鳥が飛来していたりする。海もある。夏のイベントで、砂の彫刻を作るコンテストがある。毎

年のように参加していた。麦畑は風を受け大きく波打ち美しく輝いていた。夏はいつもたんぼのあぜ道で花火をした。

空き瓶いっぱいホタルを捕まえ、クリスマスツリーみたいだね、と眺めてから空に逃がした。満天の星とその夏空を飛ぶホタル。

まさか、こんな風景になるなんて。

私達のふるさととは破壊されたのだ。

ダムの上に沈むふるさとを遠くから見ている。そんな感覚を覚える。受け入れ難い現実。離婚した私より、生まれ育った子供達の方がダメージがある。

同じような思いを抱える人が山程いる。劇団の子達もそうだ。私達は家があるだけかなり楽なはずだ。でもショックから立ち直るには時間がかかりそうだ。

明日から、仕事が再開出来るタイミングで良かったかもしれない。働いていたらなんとか考えずにすむ。目標があれば頑張れる。

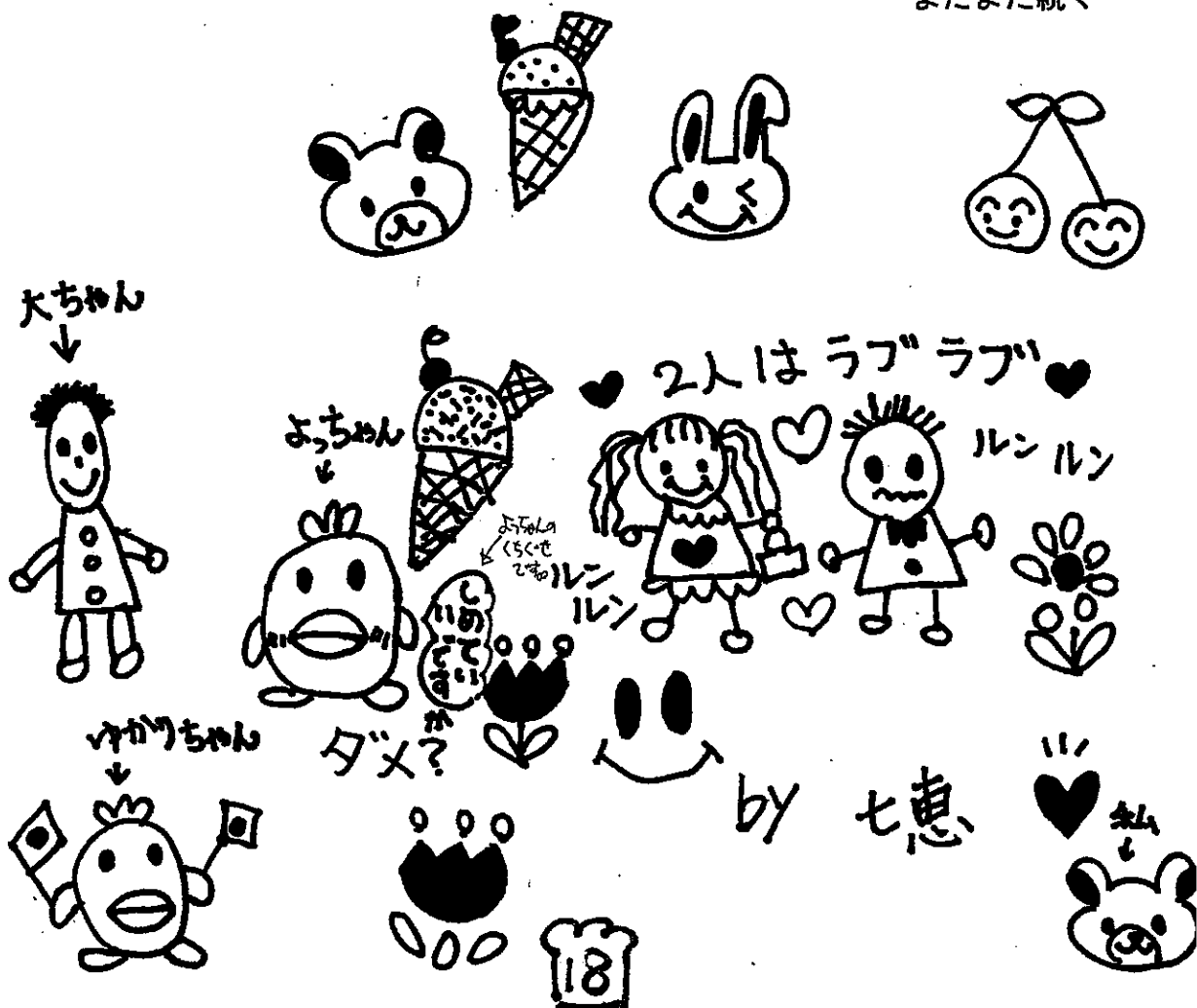
近所の商店街の皆さんからもらった勇気を今度は私達が返す番だ。

コッペの子達と一緒に。

決意は緩やかな眠りを招き、そして新たな時間が刻まれていく。

いよいよコッペ再開。

またまた続く



ひろき君のおじいさんおばあさんは石巻で津波にあいました。隣りのご主人が、何度も流されそうになりながらも二人を助けてくれました。屋根の上、泥水から頭だけ出した状態で3時間。二人を抱え何度も溺れかけては、持ち上げ、手を離さなかったそうです。有り難い事です。

救助された後も、病院はいっぱいです。命がけで仙台に連れて来てからもすぐには十分な治療が出来ませんでした。飯嶋氏の奥さんが勤める病院に入院。手厚い看護のかいもあり、一旦は元気になったと聞いていました。残念でなりません。

地震前、親方は自分で作ったあんパンをいつもお土産に、週末会いに行っていました。地震後も、色々世話を焼く親方の姿に、お互いの愛情の深さを感じました。仙台に来てから亡くなるまでのあいだ、親方と沢山話しが出来た事。お爺さんは嬉しかったと思います。

ご冥福をお祈りいたします。

地震で報告が遅れてしまいましたが、赤い羽根共同募金より70万円の配分を受け、業務用冷凍冷蔵庫を購入しましたことを報告いたします。
ご寄付をいただきました県民の皆様、本当にありがとうございました。

編集後記

沢山の人に助けられ、麦の穂は完成しました。つい増量してしまいました(笑)
コッペのみんなは働くことが大好きです。生きるパワーが伝えられたら幸いです。
震災後、沢山の皆様から多大な応援を頂きました。一つ一つに勇気づけられ、がんばって来ることが出来ました。

この場を借りて御礼申し上げます。
ありがとうございました。

コッペ一同



注文求め 販路拡大

被災地の障害者事業所

被災して地元での需要がなくなつた障害者福祉事業所の手作り商品を、被災地から離れた大阪や神奈川などの都市部で販売する動きが広がっている。大阪市西区で福祉関連コンサルタント会社を営む関原深さん(39)らが企画したもので、「ミンナD.Eカオウヤ」プロジェクト。25日には、大阪市内に専門店がオープンし、東京都内での開店も検討中だ。

専門店もオープン

関原さんはボランティアで被災地を訪れた知人から、「事業所を再開させたいが、商品を販売している地元が被災し、注文もない」という相談を受けた。そこで、被災地と支援者を結びつける方法として、被災地の事業所の商品を都市部で販売することを思いついた。

関原さんはボランティアや数量をプロジェクトに登録。被災地の商品を販売したい人は専用の発注用紙に書き込み、各事業所から直接買い付ける。現在、宮城、青森、岩手などの33事業所が、手作りの木工玩具やクッキーなどを登録している。5月上旬から大阪、神奈川、長野などでイベントを開催。いずれも好評だといふ。



被災地の事業所から届いた品が並ぶ店内(27日、大阪市の梅田スカイビル内で)

国産小麦を使ったクッキーを作る仙台市宮城野区の障害者事業所「コッペ」でも、各地から注文を受けて、16人が元気に働いている。代表の飯嶋茂さん(47)は、「注文を受けて作業が出来るのが何よりの励み。購入した人に『おいしい』と思ってもらえるよう、努力したい」と意気込む。インターネットの簡易ブログ「ツイッター」などで、販売を希望する人からの問い合わせも増えてきているといふ。

25日には、大阪市北区の梅田スカイビル内に、大手住宅メーカーから3か月の期限付きで無償提供を受けた「ミンナD.Eカオウヤ 滝見小路店」がオープン。関原さんが買い付けたクッキーやミルクキャラメル、手作りせっけん、ストラップなど33事業所の計90商品がずらりと並ぶ。

オープン後、毎日通っているという大阪市のパート従業員、鎌本五月さん(39)は、「おいしい商品はばかりが並んでいて、何度も来てしまった。買い物をして応援しているので、被災地の人にはこれからも頑張ってもらいたい」と話していた。

問い合わせは、関原さんへ。
06・6449・5115

全国各地の皆さんからご注文を頂いています。
本当にありがとうございます。(敬)